

| 授業科目 周産母子看護学特論 I | 科目概要・形式 2単位 30時間 | 配当年次 1年 後期 |
|---|--------------------------|---------------|
| 科目責任者 | 大村倫子 | |
| 担当者 | 近藤好枝、谷川 涼子、尾崎浩士、室月淳、大村倫子 | |
| 1. 科目のねらい・目標 周産期にある母児の健康問題をアセスメントし、看護実践能力の基盤となる専門知識を習得する。正常な経過をたどる対象にはセルフケアの支援をおこない、異常が発生した場合には緊急対応や看護援助について学び、母子ケアの質を高められるよう学ぶ。 | | |
| 2. 授業計画・内容 〔近藤好枝 非常勤講師（慶応大学看護医療学部 教授）〕 (4コマ) 1. 低出生体重児の看護の基本理念 2. ハイリスク新生児のフィジカルアセスメント 3. ディベロップメンタルケア 〔谷川涼子 准教授〕 (2コマ) 1. ファミリーセンタードケア 2. 痛みのケア 〔大村倫子 教授〕 (5コマ) 1. 妊産褥婦のアセスメントとプライマリーケア 2. 正常経過からの逸脱や異常にある妊産褥婦のケア 3. 周産期における母児にケアを提供する職種との連携・共同 〔尾崎浩士 非常勤講師（県立中央病院 総合周産期母子医療センター長）〕 (2コマ) 1. 妊産褥婦の異常と救急処置 〔室月淳 非常勤講師（宮城県立こども病院産科 部長・東北大学大学院医学系研究科胎児医学分野 教授）〕 (1コマ) 1. 胎児・新生児の異常と救急処置 | | |
| 3. 教科書、参考書 〔近藤好枝教授〕 特に指定なし 〔大村倫子教授〕 必要に応じ紹介する | | |
| 4. 成績評価方法 出席と参加度（講義中のプレゼンテーションや質疑への積極性）、レポート評価 | | |
| 5. 受講要件 ディスカッションができるよう、事前学習をしっかりとって出席する | | |
| 6. 社会人学生に対する配慮 | | |
| 7. その他 | | |